

この秋、札幌で障害者の未来を考える

第6回

DPI世界会議 札幌大会

DPI (Disabled Peoples' International) は、国際障害者年の1981年、世界53カ国の障害者の代表により結成された非政府組織 (NGO)。現在は158カ国の団体が加盟し、「障害者の完全参加と平等の実現」を目的に全世界で活動しています。

開催概要

期日 10月15日 (火) ~ 18日 (金)

会場 道立総合体育センター「きたえーる」
(豊平区豊平5の11)

初日は、国際舞台で活躍する方の基調講演をはじめ、障害者の権利条約制定についてのシンポジウムなどを開催。2日目、3日目は、人権・女性・教育などのテーマについて分科会で討議し、最終日は、札幌宣言の採択などを予定しています。



「一年前ブレ大会」の様子

みんなで札幌大会を
応援しよう!

サポーター募集

正会員

個人一口5,000円、団体一口10,000円

賛助会員

個人一口3,000円、団体一口5,000円

[申込先・詳細](#) DPI世界会議札幌大会事務局 ☎632-7666、FAX632-7667



機敏に車いすを操作する田中さん(右)

昨年(2009年)からチームの指揮を執る松田智也監督(中央区在

きるのがスポーツの良さ。世界のトップにいる人が、障害者だから」と特別扱いすることなく、障害者も健常者も同じ競技の選手として真剣に指導してくれたのが印象的でした」と振り返ります。

現在、貴金属加工の仕事をしている田中さんは、二十一歳の時、交通事故で下半身の自由を失いました。そのリハビリ中に車いすバスケットボールに出会い、以来、仕事と両立させながら、十七年以上も選手として活躍しています。

「ノースウインド」の練習を見学させてもらうと、ダッシュ、ストップ、ターンなど、高速で駆け回る車いすの迫力に圧倒されます。選手たちの鍛え抜かれた上半身は力強く、その躍動感あふれるプレーは障害による不自由さを感じさせません。

「札幌大会開催へのメッセージ」

㈱無限代表取締役 本田 博俊

私は、ここ4年ほどのうちに、バイクの事故で左肩を痛め、スキーで右肩を脱ぎゅうし、ゴーカートレースの事故で思い切り指を痛め、俗にいう「いい年をして」いまだ落ち着かない性分です。いつもながら、体を痛めると必ず思い知らされるのは、指一本痛めただけでもその不自由さと存在感とありがたさを痛感するということです。体のすべての働きに、普段まったく何の意識もなく生活しているのは私だけではないと思いますが、何かを失ったり、痛めたり、困ったりしないと、大半の人々はそのありがたみを感じないものかと思えます。

多少減ってはいるようですが、日本だけでも交通事故で毎年一人近くの方が亡くなり、その何倍の人々がけがをしています。世界中で体の不自由なお年寄りも増えています。そして、さまざまな痛みを受けて、表にも出られない方々や、またその重みを背負っているご家族も多くいます。そんな人々が、一体世界中にどのくらいいるのでしょうか？

今痛みを感じていない人も、人ごとではありません！身近にあるさまざまな痛みを自分のこととしてどうしたら良いかおののが考え、ぜひ行動しましょう！少しでも何かをできる人々が協力し合えば、大きな力になります。そんなDPIの活動が、より力強くなることを期待しています。



ほんだひろとし
本田博俊氏のプロフィール

本田技研工業(株)の創業者、故本田宗一郎氏の長男。レースの世界に魅了され、1973年に㈱無限を設立。現在、モータースポーツの振興に力を注ぐとともに、障害者用カートの開発・普及などにも携わり、幅広い分野からDPI世界会議を支援しています。

住)は、市内にある福祉系専門学校の三年生。高校卒業後からチームに加入し、健常者も車いすで参加できる大会では、プレーヤーとしても活躍しています。

昨年夏のキャンプにも参加したという松田さん。三年間、障害者スポーツに携わってきた感想を伺うと、「コートの中だけとはいえず、自分でも車いすを使うようになって、日